

特任講師

lecturer.

三木 浩平

Kohei Miki

キーワード

同綴異義語、第二言語、語彙処理、文処理
homographs, second language (L2), lexical processing,
sentence processing

研究内容

[1] 日本人英語学習者による同綴異義語の認知処理 (研究の背景と、単独提示時の処理について)

- 同じ綴りであるにもかかわらず複数の意味を持っている語のことを同綴異義語 (homographs) というが、これまで多くの研究者がこの同綴異義語の持つ特殊性に注目してきた。

(1)同綴異義語の例

- (1a) bank 【銀行、土手】
- (1b) sentence 【文、判決】
- (1c) organ 【鍵盤楽器、臓器】

- これまで多くの研究が、ヒトが同綴異義語を認知した際に語の持つ複数の意味がどのように心内で活性化されるのかについて検証してきており、特にそれらの研究が焦点を当てているのが、同綴異義語の意味の活性化と前出の文脈の影響との関係性についてである。
- 同綴異義語を認知した際にまず複数の意味が活性化され、その後前出の文脈の影響が現れるのか、もしくは先に前出の文脈の影響が強く現れ、同綴異義語を認知した際には複数の意味が活性化されることなく単独の意味のみが心内で活性化されるのか、この文脈処理と語彙処理の相互作用性について検証することで文理解における心的プロセスのメカニズムにアプローチすることができると考えられている。

(2)同綴異義語を含む英文の例

- (2a) In the class, the boy read the sentence.
- (2b) In the trial, the judge announced the sentence.
- (2c) To her friends, the girl must write a long letter.
- (2d) In the class, they learned how to read each letter.

- しかしながら、同綴異義語の処理については英語母語話者を対象として調査した研究が多く、第二言語学習者を対象として研究したものについては数が限られている、とりわけ日本人英語学習者を対象として調査した研究についてはかなり数が少ない。
- 当研究室では特に日本人英語学習者が同綴異義語を視覚的に処理した際の認知プロセスについて研究を進めている。

- 日本人英語学習者が英文を読む際に同綴異義語の持つ複数の意味を心内でどのように活性化させるのかを明らかにすることで、日本人英語学習者の第二言語の文理解プロセス、また語彙処理の性質について示唆を得ることができると思われる。
- これまでの研究では、主に日本人英語学習者が同綴異義語を単語単独で認知した際にはその語の持つ複数の意味のうち高頻度のもを心内でより強く活性化させる傾向が全体としてあることが明らかになっている[1][2]。

[2] 日本人英語学習者による同綴異義語の認知処理 (文脈内での処理について)

- さらにその後の研究では、日本人英語学習者が文脈の中で同綴異義語を処理する際には、同綴異義語の持っている複数の意味の頻度が重要な要因となることが示唆された。具体的には、複数の意味の持っている頻度に偏りのある場合 (biased homographs) と、複数の意味の持つ頻度が同程度の場合 (balanced homographs) とで心内での意味の活性化に違いがあることが明らかとなり、特に balanced homographs を文脈内で処理する場合は、文脈の影響が現れる前に先に同綴異義語の持っている複数の意味が心内で活性化されている可能性が示唆された[3]。
- 将来的には、今後の研究の方向性として、言語処理のメカニズムを明らかにするだけでなく、学習によって言語処理がどのように変化するかを直接的に検証するような調査を実施することも重要であると考えられる[4]。

最近の業績

[1] Miki, K. (2012) How Japanese EFL learners access English homographic words: An analysis by a semantic relevance judgment task. *JACET Journal*, 55, 19-29.

[2] Miki, K. (2014) Japanese EFL learners' access to English homographic words: A psycholinguistic study using priming experiments. *Second Language*, 13, 19-37

[3] Miki, K. (2016) Processing English Homographs by Japanese Learners of English as a Foreign Language: toward Modeling the Interface between Lexical Access and Sentence Processing in Second Language Reading (Unpublished doctoral dissertation). The graduate school of language, communication, and culture, Kwansai Gakuin University.

[4] 三木浩平 (2018) 日本人英語学習者の語彙アクセス—同綴異義語を用いた心理言語学的実験より—, *ことばの科学研究*, 19, 17-20.

- 科学研究費助成事業 若手研究 「第二言語リーディングの認知メカニズムの解明—同綴異義語の処理からのアプローチ—」代表研究者 (代表者: 三木浩平) (令和1-3年度 208万円) .